

文久四年一月十二日より文久四年一月十五日まで

P8311073 right

白酒壺壇□割烹品一重旧北堂へ羊糕一折持参、鰻児儀牛込より阪町黄窪へ年賀に廻り  
黄窪へ(菓と)鮓一重、美濃五帖、草ぞうし(五張)羽板、駒下駄衿袖口三半懸け、良造方へ半切れ  
足袋半衿

前懸(か)け等三婢へ半衿前懸、坂町へ残二袋鮓と菓りうへ衿裏衿前持参す、寺山再度来り  
志願筋組内に於めて(おいて)差支有し□にて、縷々苦情あり、医玄道天能、蕪一重持参、一杯を  
勸且

酬小品を遣す、同人より箱館表 への届状家来迄托せらる、富沢叔母年賀に来り、且信州の  
住人某を伴ひ来れり、同人より鶏卵一大筐を贈れり、酬ふに手拭地二反、乾鯉一枚を以てす  
尤思うところあるにより辞して不面、叔母取斗を以て酒肴を勧めり、ホルトメン返書訳

御□より廻し来る

十三日卯 雪

稻生(五郎)来り残品(駕用手供)を贈らる初て面す、出 殿、亜引合延期承知書付と地券  
引替の儀に付、明日金港出張一様、備前守殿より御談有し、寺山来り銅亀水滴(※)、鯉(右□)

P8311073 left

海苔一口好等、少許づつ贈らる酒飯を勧む

十四日辰 雪午前止雨意

朝第九時出立、御関へ其段一書さし出す、痔痛に付駕を雇ふ、夕第五時過金駅

□□本陣へ着、監察佐々木循輔同出張、入夜弥一着届として来る、明日は彼方大祭日に付  
諸引合断り有し旨、紀伊守より心得に申来る同断の義に付、同心専之助来る、右に□□す  
断然

出張の積り治定

十五日巳 濃陰

朝第八時頃より運上所へ循輔回船相越、第十二時ミニストルへ引合地券を遣し延期承知の  
書付差出方等の義、談判相纏り右書付受取帰る、右書付、訳書明朝持出す旨、弥一來り  
演ぶ、町田(耕)小品持参に付、伊藤(幸)方へフラレット壺枚届け方頼、且志願筋をも申  
聞る

\*1:水滴、硯で墨をするときに、注ぐ水を入れておく容器

( )内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。